SCJ 62. Syria [シリア]



〈特集〉
シリアの子どもたち
子どもたちの声を
きいてください。

Save the Children
JAPAN



「私たちが生きるために、戦争を今すぐ終わらせてください」

「私たちはシリアで生まれました。でも今はシリアにはいません。ほかの国に逃げています。大人たちが争いをやめないので帰れないのです。私たちと同じシリアの子どもは、もう7,000人近く、この内戦で亡くなりました。私たちの大切な友だち、きょうだいも含まれます。シリアの子どもたちの中で、傷ついていない子どもなんて一人もいません。私たちは、世界の皆さんにシリアで起きている本当のことを知ってほしい、そして、この戦争が今すぐ終わるために、世界中で声をあげてほしい、そう祈っています」

©Jonathan Hyams, Hedinn Halldorsson, Rob Holden and Save the Children

SCは、セーブ・ザ・チルドレンの略です。SCJは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略です。今回のシリア特集は、2013年10月末までの情報を基に制作しています。また、子どもやその家族の保護のために、人名を変更しています。



「お腹の中にいる時から栄養不良だったのだと思います。
母乳が出なくてハーブティーで生き延びました。
1歳過ぎたのに、まだハイハイも出来ないんですよ」

■レイラちゃん（1歳）＊母親のリームさんの話



「元々ナイーブな子が、爆撃が始まってからは毎日泣いていました。
父親を失ったことがきっかけで、さらに精神的に苦しんでいます。
ストレスで髪の毛が抜けてしまうのです」

■ナディームさん（6歳、写真右）＊母親のリームさんの話



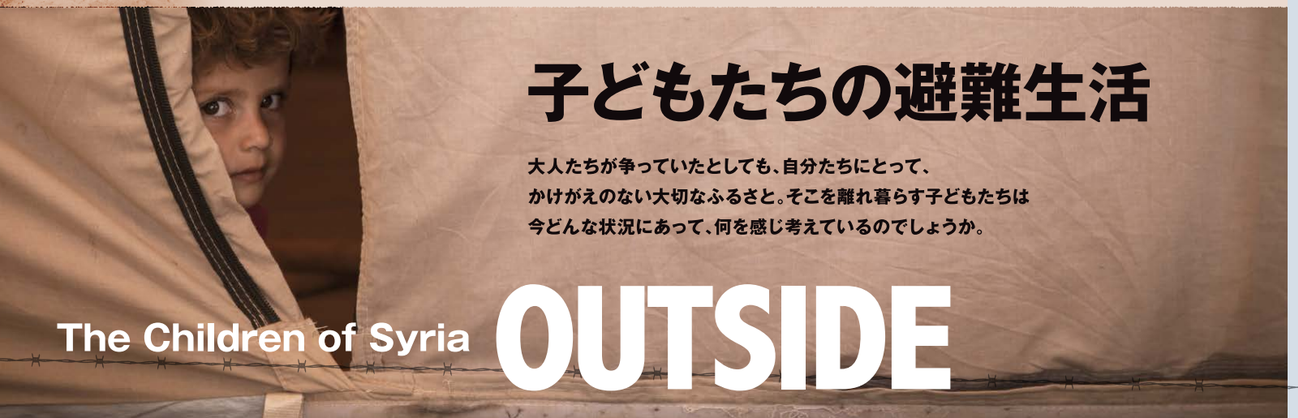
「避難先の家屋の中に一日中いて、外に出ることがありません。
もう何ヶ月も学校で勉強をしていません。学校に通って、
新しい人たちと知り合いになって、友だちが欲しいです」

■ドアーさん（13歳）

一方、周辺国に逃れることができた子どもたちも、見知らぬ土地で、しかもプライバシーのない集団生活の中で、やっとなんとか、ぎりぎりの生活を送っています。写真を見ると、どの目も不安や憂いを帯び、疲れていることが分かります。内戦で体験した想像を絶するストレスは、今トラウマとなって顔や体、行動にあらわれています。爆撃の経験から大きな物音に怖がるようになった子、悪夢を見る子、夜尿症にかかる子、内にこもりがちになったり、逆に攻撃的な性格になってしまった子もいます。

また、平時であれば学業に専念する、いわゆる「青少年」たちの中には、もう長い間、学校に通うことができず、知り合いもつくれずに疎外感や孤独感を持ち、自信を失っている子どもがいます。どの子どもも口々に、「元の学校に戻って勉強を続けたい」と訴えます。シリアの子どもたちが少しでも充実感を持って「子ども時代」を生きること。そのためには、まず内戦を止めることしかありません。





子どもたちの避難生活

**大人たちが争っていたとしても、自分たちにとって、
かけがえのない大切なふるさと。そこを離れ暮らす子どもたちは
今どんな状況にあって、何を感じ考えているのでしょうか。**

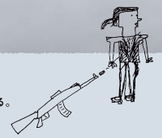
The Children of Syria **OUTSIDE**



子どもたちが見たシリア

**シリアの戦火をやっとの思いで逃れ、国外へ避難した子どもたちが
打ち明けてくれたその証言は、大人でも耐えきれない、言葉を失うものでした。
彼らが何を目撃し体験したのか、知ってください。**

The Children of Syria **INSIDE**



同じくシリアの子どもが描いた絵。
無差別な襲撃を目にしたと思われる。



シリアの子どもが描いた絵。
血をながす男性を抱いて
女性が泣いている。

爆撃、暴力、そして死。これらは、インタビューに応じてくれた子どもに共通する、シリアでの体験を表す言葉です。子どもたちは死や暴力と常に隣り合わせなのです。ある調査によれば、4人に3人の子どもが、身近な人の死をこの戦闘で経験しています。(＊1) 親が、親友が、ある日突然、自分の目の前で殺されることもあるのです。

これらの爆撃や銃撃は無差別で、学校が狙われることもあります。そして絶対に許されないことは、子どもへの暴力が起きていること。子どもたちは年齢に関係なく、殴られたり、銃で打たれたり、拷問にかけられることもあります。「人間の壁」や少年兵として大人に利用される事例も報告されています。

争いが3年目を迎えてしまったシリアでは今、農地や道路、医療施設、水タンクへの爆撃、下水道の汚染などインフラの破壊によって、食料や水の不足、病気や感染症の蔓延、栄養不良などが危惧されます。シリア国内では、子どもの権利のすべてが奪われています。シリアに残る子どもたちのことが大変心配されます。



「爆撃と奇襲と拷問の毎日でした。僕も一度つかまって銃の
持ち手のところで何度も殴られました。親戚の人たちも殺されて
亡くなったと聞いています」

■ワリドさん（16歳）



「シリアには、もう食べ物がありません。パンは、昔の10倍の
値段でしか買えません。まず小麦がないのです。逃れる時、死んだ
赤ちゃんを抱えているように思うくらいマヤは弱っていました」

■マヤちゃん（11ヶ月）＊母親のシャーディアさんの話



「僕は大切な親友を失いました。僕の目の前で銃に打たれ倒れました。
打たれる直前まで僕たちは、前日に虐殺された近所の人たち15人の
お葬式をしていました。一瞬の出来事でした」

■マジドさん（13歳）

＊1：トルコのバフチェシヒル大学のインタビュー調査による








セーブ・ザ・チルドレンの現在までの支援報告

未曾有の人道危機に終わりはまだ見えず、シリアの国内外ともに支援のニーズはさらに高まることが予想されます。セーブ・ザ・チルドレンの緊急支援はまだまだ続きますが、2013年10月現在、どんな支援を実施しているか、まとめました。

ＳＣは２０１２年７月以来、他の国際機関や民間団体と協力し、これまで７０万人以上に支援を届けました。食糧・水、衛生用品、薬、衣服などの物品の配布に始まり、乳幼児の栄養不良の改善・母子保健プログラム、教育支援、生計支援も行っています。また、子どもたちの心理的なストレスやトラウマを少しでも緩和できるような心理社会的なサポートも専門家と実施しています。

シリア国内における支援に関しては、戦闘の前線が日々変わることから、支援のニーズを正確に把握することが困難な状況にありますが、私たちが把握するよりもさらに多くの支援が必要と予測されます。そして、今いちばんに支援を必要とする子どもたちに支援を届けるには、戦闘を繰り広げる全ての勢力が人道支援を妨げないことが前提です。私たちは、人道支援のアクセスについて、国際社会に訴える政策提言も行っています。

他方、難民を受け入れる国への支援は、右の地図にある４ヶ国で実施中です。特にレバノンについては、日本人スタッフが駐在しています。２０１３年４月からは青少年を対象に支援を行っています。具体的には青少年センターを開設し、ライフスキル研修や、描画・演劇・ダンス・音楽・スポーツのクラブ活動を実施し、地域でのボランティア活動や生計支援も実施しています。これらの活動は、疎外や挫折などの感情を青少年が持ち続けることを防ぎ、少しでも日常を取り戻し社会生活を送ることを目指しています。レバノンでは、難民の流入による物価の高騰や労働力増加による賃金の低下が、もともと裕福でないレバノン人の経済状況を苦しくしていることで、彼らの間に不満が募り始めています。そのためＳＣの活動にはレバノン人の青少年にも参加してもらい、難民と地元の青少年の相互理解も図っています。

※今回お伝えしたレバノンにおけるシリア人の青少年に対する支援はジャパン・プラットフォームの助成を受け実施しています。



シリア
■シリア国内で支援を必要としている人の数：6,800,000人[*3]
■SCの支援が届いた人の数：230,270人

レバノン
■難民数：805,741人[*1]
■SCの支援が届いた人の数：117,363人

イラク
■難民数：197,844人[*1]
■SCの支援が届いた人の数：23,495人

ヨルダン
■難民数：541,025人[*1]
■SCの支援が届いた人の数：396,666人

エジプト
■難民数：126,121人[*1]
■SCの支援が届いた人の数：4,357人

シリアと難民受け入れ国における支援概況

セーブ・ザ・チルドレン（ＳＣ）は、シリア国内と周辺国のレバノン、ヨルダン、イラク、エジプトで緊急支援を展開中です。難民数は2,192,222人。[*1] 約半数が子どもです。元々のシリアの人口は2,000万人強[*2]ですので、戦闘の影響の深刻さが分かります。



CRISIS RESPONSE

＊1：UNHCR, 2013年10月調べ　＊2：2008年統計　＊3：OCHA, 2013年7月調べ

食糧・生計　教育　子どもの保護　保健・栄養　水・衛生　生活必需品　避難シェルター



Vietnam
［ ベトナム ］

防災について学ぶこと。それは日本だけでなく
世界中の子どもが必要としています。

自然災害が多発し、毎年多くの子どもたちが甚大な被害を受けているベトナムで、子どもたちや地域住民の防災意識を高め、災害への対応能力を強化するための防災事業を実施しています。私たちの防災事業の特徴は、防災への子どもたちの主体的な活動にあります。今回ベトナムの子どもたちは、雨や台風の時に川で遊ぶことの危険性や、水泳技術を身につける必要性について考え、それを劇にして地域の人々の前で発表しました。



Japan
［ 日本 ］

野外で遊ぶ機会を制限された福島の子どもたちに、
自然体験や外遊びの機会を提供しています。

福島第一原発事故の影響で、福島県内では依然、多くの子どもたちが野外で遊ぶ機会を制限されています。ＳＣＪは子どもたちに、自然体験や外遊びの機会を提供する「コメラさんさんプロジェクト」を展開しています。8月には、放射線量が低く自然豊かな南会津町で、野外教室を2回開催。福島市から参加した小学5年生のりょうたさんは、「川遊びや沼遊びなど、普段できない経験ができた！」と満面の笑みでした。



Japan
［ 日本 ］

山田町の子どもたちが生み出した「まつしい」。
町の公認キャラクターをぜひ応援してください！

震災から3ヶ月後に岩手・宮城県の3地域で始まった、子どもまちづくりクラブ。復興に向けて子どもたちが主役となって活動しています。岩手県山田町のメンバーが生み出したのは、まちの活性化のイメージキャラクター「まつしい」。地域のイベントでも大人気で、町の公認キャラクターになりました。「海に山に自然豊かな山田をもっと知ってほしい！」復興に向けて活躍する「まつしい」と子どもたちを応援してください。



Myanmar
［ ミャンマー ］

5歳未満児の死亡をくい止める！
ミャンマーの栄養事業は順調に進みました。

5歳未満児死亡の間接要因である栄養不良の削減に向け、2010年から3年間、バゴ地域90村を支援しました。栄養改善や母乳育児を促進するボランティアを各村で育成したり、栄養バランス確保のための菜園や養鶏活動を支援するなど、村の人々の自助努力を促したことで、子どもの栄養不良率は支援終了後も低水準を持続しています。あるお母さんは「子どもは元気に走り回っています」と、嬉しそうに話してくれました。



Mongolia
［ モンゴル ］

モンゴルで、ますます広まるポジティブ・
ディシプリン。幼稚園の先生も実践しています。

ポジティブ・ディシプリンを実践する幼稚園の先生は、こんなことを大切にしているそうです。「『これもダメ、あれもダメ』と言われたら、子どもは行動を限定されてしまって何もできなくなります。そして将来、何か新しいことをしようという時も、『怖い』と感じて前に進めなくなるのではないかと思うのです。『何かを学びたい』という幼稚園児たちの意欲を大切に、褒めて励まして、日々の子育てを頑張っています」



Japan
［ 日本 ］

「たくさんの人に恩返ししたい！」奨学金を受けた
生徒が強い気持ちを語ってくれました。

東北でさかんな農業・水産業の未来を担う高校生をサポートするため、被災3県あわせて29校、のべ3,305名の生徒に奨学金支援を行いました。日本では6人に1人の子どもが貧困下にあり、被災地も例外ではありません。家計の負担を懸念して中退する子どもが増える中、奨学金で通学を継続した生徒からは、「漁業を通して、たくさんの人に恩返しをしたい」という声もあり、地域に貢献する強い思いを見せてくれました。

今回お伝えしたモンゴル、ミャンマーの活動は、外務省・日本ＮＧＯ連携無償資金協力により実施しています。

■各国活動の進捗・報告

活動国における支援の進行状況や
結果などについて、その一部をお知らせします。
今回は、復興支援を続ける東北と、
支援を長期に実施しているモンゴル、
ベトナム、ミャンマーからです。



Save the Children JAPAN

＊みんなの広場＊

冊子「ＳＣＪ」は、私たちの活動をもっと丁寧にお伝えし、皆さまに共感いただくこと、
また、世界中の子どもたちをはじめ、ＳＣＪに関わるすべての人のことを皆さまの近くに感じていただくことを目指しています。
この「みんなの広場」では、ＳＣＪからのお知らせをはじめ、皆さまからのメッセージも掲載いたしますので、ぜひご投稿ください。

個人寄付者の皆さまへ、「寄付金控除」についてのお知らせです。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは内閣府より公益社団法人の認定を受けています。皆さまからのご寄付は寄付金控除の対象となり、確定申告により、所得税の税額控除または所得控除が受けられます。寄付控除の詳細につきましては、最寄りの税務署などにお問い合わせください。

※所得税の税額控除は、より大きな金額の還付が可能となります。
※お勤め先の年末調整では申請できませんので、ご注意ください。

また継続ご支援者の皆さまには、2013年1月から12月末までにいただきました寄付金の合計金額を記した証明書付き領収証を、2014年1月末ごろにお届けいたします。

Save the Children JAPAN

未使用・書き損じハガキ、未使用切手のご寄付をお願いします。

皆さまのご協力により、今年は501,207円分の「未使用・書き損じハガキ」と「未使用切手」が集まりました。いつもあたたかいご支援をありがとうございます。引き続き、書き間違えや不要になりましたハガキ、または未使用切手がお手元にございましたら、同梱しました専用封筒に入れてお送りください。ＳＣＪの活動費として活用させていただきます。

Save the Children JAPAN

東北の子どもたちが、支援のお礼に訪ねてくれました。

東日本大震災から2年半経過した9月11日、部活動のバス支援などを行った、岩手県の大船渡第一中学校2年生の皆さんが東京事務所を訪ねてくださいました。“自分たちができることから”をモットーに「希望隊」を結成し、仮設住宅のガラス拭きやゴミ拾いをしているそうです。彼らが一生懸命に地域の人たちを勇気づけていることを知り、私たちが逆にパワーをもらいました。写真は、生徒たちが作ったオリジナルの大漁旗です！



＊「みんなの広場」へのご投稿について＊

メッセージやご質問など、郵便か電子メールでお送りください。送り先は裏表紙、「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ニュースレター編集係」宛。メールアドレスはvoice@savechildren.or.jpです。ご連絡先も明記ください。いただいた個人情報は責任を持って厳重に管理させていただきます。

ご支援者の皆さまへ

ご住所、電話番号、メールアドレスなど、ご変更がありましたら、メール(donation@savechildren.or.jp)もしくは裏表紙下の電話番号に、必ずご連絡をお願いいたします。

Save the Children JAPAN

ＳＣＪのアニュアルレポートがアメリカで受賞しました！

ＳＣＪの英語版アニュアルレポートが、「第27回国際アニュアルレポートアワード2013」においてデザイン部門(子ども支援分野)の佳作を受賞しました。1987年から開催されているアニュアルレポートのコンペティションで、今回は、34ケ国から2,260冊が出品されました。





＋編集者のコラム＋

今回のシリア特集は、いかがでしたでしょうか。
いつもの明るいイメージとは違いますが、今現在、私たちと同じ時間を共有しながら、
日本から遠く離れた土地で過酷な時を過ごす子どもたちのことを少しでも知っていただきたく、
デザイナーと相談してこの特集を組ませていただきました。
ＳＣＪでは今後、レバノンだけでなくシリア国内においても支援を展開し、
こどもひろばを設置していきます。

さて、2013年も間もなく終わり。皆さまにとって、この1年はどんな年だったでしょうか。
手前味噌ながら上にあるとおり、ＳＣＪのクリエイティブチームは今年、アメリカで賞を受賞しました。
とても嬉しかったのですが、今回はデザインの評価でしたので、今後は中身で勝負したい！そう思っています。

「SCJ」編集担当／岡田茜



Stakeholder Interview & Information

＜特別インタビューとお知らせ＞



OGO

オゴー産業株式会社 企画室 室長
片山 一昌様

「日本の子どもにＳＣＪを知ってもらいたい」



学生服や学校制服などの製造販売を営むオゴー産業は、2004年から継続してＳＣＪをご支援くださっています。支援の方法がユニークで、写真にあるように、制服の首元にＳＣＪのロゴが縫い付けてあるのです。「ロゴが持つ支援活動の意義を子どもたちが理解し、誇りや自尊心を育み、さらには、大人になってからもロゴを覚えていてくれて支援活動が脈々と続けばよいという願いがあります」現在、小学校から高校まで全国で40校を超える学校がロゴ入り制服を採用してくださっているそうです。採用校では、「この制服を着用することが世界の子どもたちへの支援になる」と同時に、着用する生徒たちのグローバルな視点や道徳心の醸成につながると考えてくださっているとのことです。「オゴー産業では、この活動によって支援先の子どもたちも、そして支援する側も、関係する全ての人たちが笑顔になれることを信じ願い、ＳＣＪへの支援を継続してまいります」

G-7ホールディングスがミャンマーの活動をご支援くださいます。

G-7グループ

「オートバックス」や「業務スーパー」などのフランチャイズ事業を展開するG-7ホールディングスからは、チャリティコンサートを開催し、そのチケット代の全額をミャンマーの支援活動へご寄付いただきました。紛争が60年以上も続いた南東部カレン州に暮らす子どもたちが、安心・安全な環境で教育を受け、「学ぶ楽しみ」を感じることができるよう、教育事業に役立たせていただきます。



http://www.g-7holdings.co.jp/

美健からアロマ製品を通じて子どもの未来を応援いただいています。

Enjoy Aroma Life

長年ＳＣＪにご支援をいただいている美健は、ハーブやアロマなど、香りの商品を製造するアロマ専門のメーカーです。その美健からは、「ラ・フルール シリーズ」の全商品の売上の一部をＳＣＪにご寄付いただき、子どもたちの未来を支える活動にご協力いただいています。さらに、商品展示会などの場においては、ＳＣの活動について来場者に広めていただいています。



http://www.e-biken.co.jp/

レキットベンキーザーから子どもの保健衛生をサポートいただいています。

Reckitt Benckiser

「ミューズ」や「クレアラシル」など多岐に渡る製品を扱うレキットベンキーザー・ジャパンは、グローバルパートナーとして、保健衛生の分野で世界60ヶ国以上の子どもたちの健康・衛生的な生活をサポートいただいています。製品の社内販売やチャリティーセールなどの機会を通してご寄付をいただくとともに、事業地視察においては、建物修繕など実際の支援活動を体験いただきました。



http://www.rb.com/jp

発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル 4F　ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068（平日 9:30-18:00）

2013年 11月発行　印刷協力：星光社印刷株式会社